

“しつけ”とは違うの？

～子どもの視点で考えるということ～

「しつけ」とは、子どもが社会の中で生きていくために必要な善悪や礼儀作法を教え自律に導くことです。

その際、保護者が子どもをひとりの人間として感情や価値観を尊重し、暴力以外の方法でおこなわなければなりません。

「しつけ」と称して危害や苦痛を与えることは、たとえそこに親の意図としての“愛情”があるにしても、子どもにとっては有害ですから「虐待」とみなされます。

虐待の場合

親は子どもの感情を
認めません

子どもは親に意見が
言えません

親は他人の助言を
受け入れません

常套句は
「親の言うとおりにしろ」



しつけの場合

親は子どもの感情を
認めます

子どもは親に意見が
言えます

親は他人の助言を
受け入れます

常套句は
「～なふうにしようね」
「～するといいね」



長いこと親の“支配”のもとにあると、子どもはそれが
“当たり前” “自分が悪い子だから” と思い込んでしまうため、自らSOSは出せません。

おかしいと感じた“あなた”が迷わず連絡してください。